投資家・株主の皆様へ

平素より Heartseed 株式会社に多大なご支援を賜り、誠に有難うございます。代表取締役社長 CEO の福田恵一でございます。今回の社長メッセージでは、2026 年 10 月 23 日から富山で開催されました「第 30 回日本心不全学会学術集会」について、お伝えできる範囲でお話いたします。

**＜シンポジウム 4「日本から発信する最先端医療」＞**



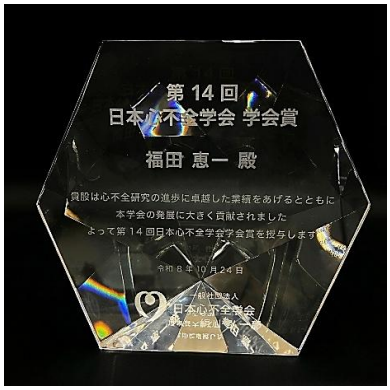

学会初日には、シンポジウム 4 で座長を仰せつかり、5 名の先生方にご発表頂きました。その中で、信州大学医学部附属病院 循環器内科の小林秀樹先生による「iPS を用いた重症心不全治療の実用化：世界初のカテーテルを用いた拡張型心筋症に対する心筋細胞移植」と題したご発表が、一際聴衆の注目を集めました。当社が開発する iPS 細胞由来心筋球®のカテーテル投与治験（EMERALD 試験）の第 1 例目における術後 6 か月の経過として、重篤な合併症が観察されなかったことに加え、移植後 1 か月で左室駆出率の改善やリバースリモデリング（左室拡張/収縮末期容積の縮小）を認め、6 か月後も効果が維持されている旨がご報告されました。中でも座長である私を含め会場の先生方を驚かせたのは心臓超音波検査の動画でした。術前は著しく拡張し弱々しく収縮していた左心室が、経過とともに縮小し収縮が改善している様子が映し出され、共同座長の国際医療福祉大学三田病院教授の田村雄一先生や会場の先生方から、驚きのコメントとともに熱心なご質問が寄せられました。第 1 例目の 6 か月データから即断することは到底できませんが、拡張型心筋症にも本治療が有効である可能性が示唆されたこと、また冠動脈バイパス術（CABG）を併用しない症例において良好な 6 か月の有効性データが出始めたことは、カテーテル投与である HS-005 のみならず、開胸投与である HS-001 にとっても大きな福音であると受け止めています。

**＜シンポジウム 12「働き方改革に負けない循環器内科医へのインセンティブとは？」＞**

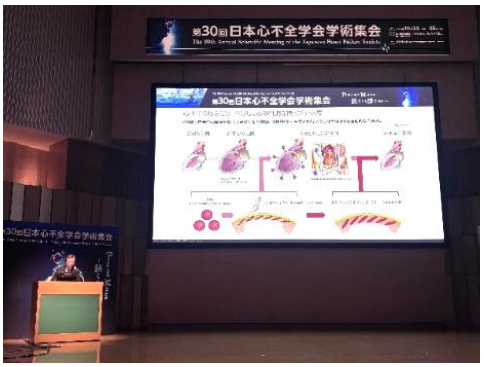
翌日 24 日午前には、シンポジウム 12 で、「ベンチャー企業経営まで進めた基礎研究者から見る、循環器内科医のアドバンテージ」と題して講演を行いました。近年、ハードワークや緊急対応の多さから志望者が減少傾向にある循環器内科・心臓外科の現状を懸念し企画された本シンポジウムにおいて、私はアカデミア発ベンチャーを立ち上げた原点として、「自らが開発した研究成果をもとに新しい治療法を作り、人類の役に立ちたい」という強い想いをお伝えしました。また、研究成果を社会実装するためには、人・資金・情報を集めて組織を作ることが重要であり、経営ノウハウを学ぶことで成功確率の高い起業家

になれるとエールを送りました。私自身、まだ道半ばの経営者ですが、自らの歩みを通じて若手研究者に新たなキャリアの可能性を示す一助となり、このメッセージが刺激となって一人でも多くの起業家が育つことを期待しています。

**＜2026 年学会賞・学術賞受賞講演＞**




24 日午後は、日本心不全学会総会にて、日本心不全学会理事長（富山大学学術研究部医学系内科学（第二）講座教授）の絹川弘一郎先生より、学会賞の授与という身に余る光栄に浴しました。続く受賞講演では、iPS 細胞製造から心筋球作製に至る当社の基盤技術を概説し、今年 8 月の欧州心臓病学会（ESC2026）で発表した LAPiS 試験の臨床成績と、カテーテル投与による EMERALD 試験の第 1 例目の臨床成績について講演しました。




今回、LAPiS 試験に関しては、SPECT（核医学検査による血流・組織評価）を用いて血流低下のみの「虚血領域」と心筋組織が失われた「梗塞領域」を明確に判別し、症例毎の解析結果を初めて公表いたしました。本来、虚血領域であれば CABG による血流再開で一定の機能回復が期待できますが、解析の結果、被験者の左室の大部分は既に梗塞領域でした。特に高用量群の 5 例中 4 例では術前・術後に虚血領域が検出されず、CABG のノンレスポンダーと考えられる患者様であったにも拘わらず、左室駆出率の改善が観察されました。このことは、心筋球そのものによる治療効果を示唆していると考えております。講演の結びでは、基礎研究の社会実装における留意点を自らの経験を交えて語るとともに、これまで研究に尽力してくれた慶應大学の医局員の皆様に改めて感謝申し上げました。

**＜会長特別企画 8「目の前にある心筋再生医療の時代（iPS シート・iPS 心筋球）」＞**

同日の最後には、会長特別企画 8 で講演いたしました。これは絹川学会長が臨床に到達した「iPS 細胞由来心筋シート」と「iPS 細胞由来心筋球」という二つのアプローチを議論するために企画されたセッションで、会場は満席で立ち見が出るほどの盛況となり、関心の高さを肌で実感いたしました。作用機序が異なりますが、将来的に患者様にとって多様な治療選択肢が生まれることは大変有意義なことであると私は考えております。この日は計 4 つのセッションで座長や演者を務め、計 70 分以上お話しして喉が枯れるほどでしたが、慌ただしくも充足感に満ちた一日となりました。

＜最後に＞

今回、心不全治療の第一線で活躍される先生方が集うこの学会において、EMERALD 試験第 1 例目の経過報告や当社の講演に非常に高い関心が寄せられたことは、大きな励みとなりました。再生医療のように未知の部分が多い領域だからこそ、しっかりとサイエンスを積み上げ、学会の場で先生方にさらして議論いただき、新たな視点を得ていくことが何より大切だと考えています。今回は、LAPiS 試験のデータが良好だったという結果に留まらず、1 例 1 例を SPECT 検査によって丹念に解析し、「何がどう効いたのか」という検証を重ねたプロセスをお示しできたことに大きな意義を感じています。

また、EMERALD 試験については、各治験施設様において厳格かつ真摯に治験をご推進いただいており、新たな治療の実現に向けて多大なるご協力を賜っております。この場を借りて、心より深く感謝申し上げます。

学会賞をいただいた重責を胸に、今後も心不全研究・医療の発展に寄与し、一日も早くこの治療法を患者様にお届けできるよう、引き続き全力を尽くしてまいります。今後とも、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Heartseed 株式会社　代表取締役社長　福田　恵一



※心筋球®は Heartseed 株式会社の登録商標（第 6932696 号）です。

【免責事項】

本資料は、投資家および株主の皆様への公平な情報提供を目的として、弊社ホームページ「IR」内に掲載するものです。本資料に記載の開発品はいずれも、日本を含むいずれの国・地域においても現在開発中の未承認品です。

ここに記載する弊社治験に関する情報は、学術集会で発表された情報を投資家・株主の皆様にも等しくお知らせすることを目的としたものであり、当該開発品の安全性・有効性を宣伝または保証するものではありません。本資料が掲載された時点で、当該開発品の治験はいずれも継続中であり、学会発表は途中経過を示したものに過ぎず、最終的な結果や評価を保証するものではありません。